

令和4年度 第1回 八千代市学校適正配置検討委員会記録

日 時 令和5年3月14日 17時30分から19時00分

場 所 八千代市教育委員会大会議室

議 題 阿蘇米本学園にみる義務教育学校の効果

公開又は

非公開の別 公開

出席者 <以下敬称略>

大山 光晴, 八巻 憲一, 落合 啓子, 麻生 秀樹, 切替 基貴
岩瀬 浩子, 高橋 壯夫, 関野 薫, 津田 良幸, 多田 知史
榎原 伊織, 星山 司, 山本 正義, 田中 陽子, 中村 史子

事務局 教育長 小林 伸夫, 教育次長 設楽 憲一, 教育総務課長 原 武司
学務課長 兒玉 健司, 指導課長 高原 敬介, 保健体育課長 宮崎 幸子
学務課主幹 瀬口 朗子, 学務課事務局3名

傍聴者 なし(定員3名)

事務局 定刻になりましたので、始めさせていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。教育委員会学務課、学校適正配置検討委員会事務局担当の片桐です。どうぞよろしく願いいたします。

本会議は八千代市審議会等の会議の公開に関する要領に基づき、傍聴を許可しておりますが、現段階で傍聴の届け出はありません。また、本日の会議終了後、会議録は公開することとなっております。

本日皆様の机上に資料とともに委嘱状をおかせていただきました。感染症拡大防止の観点から机上面にてお渡しさせていただきますので、ご了承ください。なお、座席につきましては、立場の異なる方が隣り合うように設定させていただきました。よろしく願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、小林教育長よりごあいさつを申し上げます。小林教育長よりお願いいたします。

教育長 皆様、改めましてこんにちは。教育長の小林でございます。令和4年度学校適正配置検討委員会の開催にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。委員の皆様におかれましては、お忙しい中、またお疲れの中お集まりいただきましてありがとうございます。日頃より本市の教育に御支援をいただきまして心から感謝しております。

私から八千代市の小中義務教育学校の教育についてお話をさせていただきます。まず児童生徒数ですが、今年度5月1日現在15,352名となっており、前年度比132名減となっております。市全体ではやや減少となっておりますが、皆様ご存じのとおり、みどりが丘小学校と新木戸小学校は児童が急増しております。みどりが丘小学校は今年度1年生が7学級、

新木戸小学校の1年生が5学級となっております。これからもっと増えていく状況であります。このことについては、副市長を長とした全庁横断的な組織であります西八千代地区小中学校等対策検討委員会を設置しまして、1年間にわたって検討を進めてまいりまして、西八千代地区にみどりが丘小学校の分離新設校を設置する方針を決定いたしました。現在、調整・準備を進めております。

また、本日の議題であります、平成27年に本委員会から出されました答申を基に準備を進めてまいりました、千葉県では4校目、八千代市では初となる義務教育学校・阿蘇米本学園が令和4年4月に開校し、無事1年間を終えようとしています。手前味噌になりますが、阿蘇米本学園は子供たち、教職員、保護者・地域の皆様「みんながデザイナー」として、1年間頑張ってまいりました。素晴らしい義務教育学校となっております。4年前に私が教育長になった際に訪問した米本小学校の4年生は、学年が7人、その中で女子が1人という状況でした。また、統合前に子供たちを書いてもらった思いの中に、「友達をたくさん作りたい」という言葉がたくさんありましたが、今の阿蘇米本学園は1～9年生が本当に仲良く、夢と希望のあふれる学び舎となっております。本日は皆様に、阿蘇米本学園の1年間の学校の取組や学校評価をご覧いただき、御意見・御感想をいただければと思いますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

事務局

ありがとうございました。小林教育長は、所用のためここで退席いたします。

続きまして、委員の皆様から自己紹介をお願いします。大山委員から順番に、お名前と所属等をお願いいたします。

(委員自己紹介)

事務局

ありがとうございました。続きまして、事務局の自己紹介をさせていただきます。

(事務局自己紹介)

事務局

ありがとうございました。本日は2名の委員が所用のため欠席との連絡がありましたが、委員の出席が過半数に達しております。八千代市学校適正配置検討委員会設置要領の第5条2項の規定により、会議が成立することをご報告いたします。

次に会議に移るところではありますが、本委員会の議長は、委員長にお願いすることとなっております。八千代市学校適正配置検討委員会設置要綱第4条に「委員長は委員の互選により定める」とされています。委員長に立候補していただける方、または推薦していただける方はいらっしゃいますでしょうか。

委員

昨年度の会議にも参加させていただいておりました八千代台東小学校の山本です。昨年度に引き続き学識経験者として参加されている秀明大学の大山先生を委員長に推薦いたします。

事務局

ありがとうございます。大山委員のお名前が挙がりましたが、他に立候補、推薦はございませんでしょうか。大山先生、いかがでしょうか。

委員 (拍手多数)

事務局 それでは、委員長を大山委員にお願いをいたします。また、要綱第4条に基づき、委員長から副委員長の指名をお願いしたいと思います。委員長よろしくお願ひいたします。

委員長 退職校長会代表の麻生委員を副委員長に指名いたします。

委員 (拍手多数)

事務局 それでは、委員長・副委員長は席の移動をお願いいたします。以降の進行を大山委員長にお願いいたします。

委員長 ただ今より、令和4年度第1回八千代市学校適正配置検討委員会を開会致します。議事に移ります。本日は「阿蘇米本学園にみる義務教育学校の効果」という議題が設定されております。事務局お願ひします。

事務局 令和4年4月に阿蘇・米本地域の阿蘇小学校、米本小学校、米本南小学校、そして阿蘇中学校の小学校3校と中学校1校が統合し、八千代市初の義務教育学校「阿蘇米本学園」が開校しました。

この阿蘇米本学園開校にあたっては、平成27年に本適正配置検討委員会から出された答申を基に準備が進められてきました。学校適正配置の方法の一つとしての統合、今回は特に義務教育学校の効果について、阿蘇米本学園の1年間の取り組みを紹介し、委員の皆様からご意見をいただき、教育委員会と学校が連携をして、次年度につなげていきたいと考えております。

この後、子供たちの様子をスライド及び動画で学校の様子をご覧いただき、御意見をいただく時間を設けます。その後、12～1月にかけて行いました学校評価の結果を紹介し、まとめの時間となります。

はじめに阿蘇米本学園の紹介に移る前に「義務教育学校」について説明をさせていただきます。義務教育学校とは、平成28年の学校教育法の改正により新設された学校種で、これまで小学校6年間、中学校3年間で行われていた義務教育を9年間一貫して行う学校です。令和4年度は全国に178校あり、千葉県では市川市に1校、成田市に2校ありましたので、県内では4校目となります。

一般的に、義務教育学校のメリットとして、中学校へ進級することによる環境面の変化といわれる「『中一ギャップ』の解消」、一貫したカリキュラムによるスムーズな学習、異学年との交流の活発化などが挙げられております。

それでは、実際に阿蘇米本学園の子供たちの様子をご覧いただきたいと思ひます。

4月、阿蘇米本学園が開校しました。4月6日に新2～6年生の児童と阿蘇中学校に在籍していた新2・3年生で開校記念式典を行い、新たなスタートを切りました。開校記念式典にて、阿蘇中学校の生徒がデザインをした新しい校章が披露されました。校章に使われている緑・黄色・水色・白の4色は統合した4校の体操服をイメージしたそうです。

第1回の入学式は、新中学1年生(7年生)にあたる後期課程、新小学1年生にあたる前期課程の2回の入学式が行われました。右の画像にあるように、後期課程の生徒が新1年生をエスコートする形で実施されました。

次に義務教育学校の大きな特色として挙げられる教科担任制です。小学校では、担任が授

業をすることが多くありましたが、近年教科担任制が、市内の小学校でも取り入れられ始めています。阿蘇米本学園は、1～9年生が同じ校舎で生活をしているため、前期と後期の教員が同じ校舎内にいます。そのため、後期課程（中学校）の理科の先生が、前期課程（小学校）で理科の授業を行ったり、前期課程の先生が、後期課程の授業に少人数指導として入ったりすることができています。子供たちがより多くの先生方の指導を受けながら、学習内容の定着を今まで以上に図ることをねらいとしております。

次に通学支援バスです。学区が広がったことに伴い、1～6年生の児童の多くは、市の負担で運行する通学支援バスに乗って通学をしております。バスはエリアごとにもえぎ野コース、下高野・保品コース、米本コース、城橋コースの4コースで運行しております。

学年を越えた活動について、ご覧ください。阿蘇米本学園には小学校1年生から中学校3年生にあたる9年生が一緒に校舎で生活しており、清掃の時間や昼休みをはじめ、学年を越えた交流が盛んに行われております。

清掃の時間は、主に後期課程の生徒が各エリアのリーダーとなり、学年を越えたグループで「黙動清掃」に取り組んでいます。また、昼休みなどにはグラウンドにて交流する姿を見ることができます。

次にクラブ活動です。4～8年生がそれぞれの興味・関心に応じて、クッキング、サイエンス、スポーツ、ダンスなどの活動をしています。このように様々な形で異学年交流が盛んに行われております。

今年の運動会は、5～9年生は春（5月）、1～4年生は秋（11月）に実施されました。画像左は合同での長縄跳びの様子、画像右は1～9年生全校による「じゃんけん列車」の様子です。

前期課程の子供たちにとっては、身近なところにお手本となるお兄さん、お姉さんとなる後期課程の生徒がいることで、目標や憧れを持って生活することができます。一方、後期課程の生徒は、前期課程の児童と一緒に生活をする中で、周囲への気配りができる等、自身の成長を実感できる環境があると考えております。

これまで阿蘇・米本地域の学校も地域の方々にも体験学習等でお世話になっております。今年度も地域の畑や田んぼをお借りしての学習を行ったり、地域の方をゲストティーチャーに招いての授業や地域の方と防災について考える取り組みを行ったりしております。

次に実際に学校生活の様子が分かる動画を準備しましたので、ご覧ください。

（阿蘇米本学園の1年間の学校生活の動画視聴）

以上、事務局から阿蘇米本学園の学校生活の様子について報告をさせていただきました。御意見・御感想・御質問等をいただければと思います。委員長お願いします。

委員長
委員

委員の皆様、御意見・御感想等ありましたらお願いします。

不勉強で申し訳ないのですが、4校が統合して作られた学校とのことですが、4校の通学区域の子供たちが義務教育学校に行くという理解でいいのでしょうか。他の地区から通うことは可能なのでしょうか。

- 事務局 阿蘇小・米本小・米本南小の3校の学区の子供たちは基本的には阿蘇中学校に進学しておりました。元々の阿蘇中学校の場所に義務教育学校として統合されて、小学校3校の学区に居住している児童と阿蘇中学校の学区に居住している生徒が通っております。
- 委員 今年度は何名からスタートして、来年度以降の人数はどのくらいの人数になる予定でしょうか。
- 事務局 (スライドにて令和4年5月1日時点の児童生徒数を提示)
今後もこの数字と同じくらいの人数の予定となっております。
(スライドにて令和3年5月1日時点の3小学校、阿蘇中学校の児童生徒数を提示)
この4校が統合し、阿蘇米本学園がスタートしております。
- 委員 通学支援バスが出ているとのこと、通常の登下校は問題ないと思いますが、部活動や放課後子ども教室、学童の子供たちへの通学支援バスの体制はどうなっているのでしょうか。
- 事務局 通学支援バスは対象を児童に限定しているため部活動後の利用はありません。学童の後については、下校便の後に学童利用の子供たちの下校便が出ています。
- 委員長 コロナ禍での準備も大変だったと思いますが、先ほどのスライド・動画を見ると1年間の学校行事は予定通り行うことができたのですか。
- 事務局 4校が統合したので、これまでの各校の行事すべてを実施することは難しいので、学校が内容を精選して、行事予定を組み、実施しています。また、今年度の反省を踏まえて次年度行事予定を組んでいくことになっています。
- 委員長 皆様の方からもいかがですか。
- 委員 米本地域の学校が阿蘇の方に入っていくように見受けられました。阿蘇中の校舎を利用しているようですが、元々の小学校の校舎はどのように活用されるのでしょうか。
- 事務局 元々あった小学校3校の活用については、市の方で別の委員会を設けて、活用方針の検討を進めています。地域の方々や有識者の方々から、様々な御意見をいただきながら、教育委員会とは別のところで検討を進めているところです。
- 委員長 地域にとっては大事なところですね。その他いかがでしょうか。
- 委員 中学生と小学生が一緒になったということで、質問です。休み時間に歳が離れている子供たちが一緒にグラウンドに出る際に、グラウンドを分けることやケガをしないような配慮等をしているのでしょうか。
- 事務局 先ほどスライドでもご覧いただいたように、学校からの話では学年を超えた交流が行われていると聞いています。統合に関する説明会などでも、保護者の方々から当初は心配の声もありましたが、問題なく交流がなされていると聞いています。
- 委員長 大人が心配するよりも、子供たちのほうが偉いんですね。その他いかがですか。
- 副委員長 私も阿蘇中学校には教員として4年間、校長として2年間勤務をしておりました。米本小は一番多い時で、1000名を超える規模の大きい学校でしたが、近年は1学年の人数が10名にも行かないような状況になっていたため、統合はよかったと思います。子供たちが会うことによってさまざまな経験をすることで成長できると感じています。義務教育学校になって、授業でも、小学校、中学校の両方の教員が、免許の関係もあるとは思いますが、

教科担任制などの授業をおこなっています。私の子供が義務教育学校に勤務しておりますが、小学校教員が部活動に関わることになるが、これまで土日は家族と過ごす時間があったが、一変して野球部の顧問として勤務することは、好きな競技であれば良いが、それぞれの先生方の判断にもなるが、「家庭があって」というようなところもうまくやっていく必要があると思います。また、今後、阿蘇米本学園の勤務をこれから「希望する職員」「希望しない職員」も出てくると思うが、小中一貫教育に向けて想いのある教員を、環境に合わせた形で教職員の希望を聞きながらやって欲しいです。希望が多いときは良いけれども、うまく継続して義務教育学校の良さを活かした学校経営がされると大変ありがたいと思います。

委員長

ただいま、副委員長のほうからありました教員免許についてですが、御存じのない方のためにお話しさせていただきますと、小学校と中学校で免許は別になっています。小学校課程を教えるためには小学校の免許、中学校課程を教えるためには中学校の免許があります。一緒になったとしても、小学校6年生を教えるためには、中学校の先生も小学校の免許を持っている必要がある、あるいは小学校の先生が中学校で授業するためには、中学校の免許を持っている必要があると、その点については市としては、教員の配置についてもなかなか難しいところがあるのかなと思います。（※後程事務局から補足説明あり）

また、部活動については、今まさに国をあげて問題になっているところだと思いますので、阿蘇米本学園に限らず、教員の働き方改革については色々な議論がなされるところかと思えます。他にいかがでしょう。

委員

今の動画を観させていただいた率直な感想を述べると、動画は撮影する人と子供たちとの関係性がとてもよくわかるものだと思います。撮影をしている先生のことが好きなのだろうなということが伝わってきました。後期課程の女の子たちが喜んで手を振っている姿を見ると、職員と子供たちの関係性の良さが見える気がしました。また、先ほど米本小学校の新入生の数が一桁だったというお話があり、教育長さんからも子供たちから「友達をたくさんつくりたい」というような声があったお話をされていましたが、今の映像を見ると前期課程の子供たちと後期課程の子供たちが仲良く遊んでいたりと、体操服の色が異なる子供たちが一緒に活動したりしている様子を見て、子供たちにとって「友達をつくりたい」というのはとても切実な願いだと思うので、統合の理念であった「より良い教育環境」の提供ということが体現できているなど素直に感じました。

委員長

その他いかがでしょう。

委員

話が少し戻ってしまいますが、統合するにあたって先生の数や配置はどうなっているのでしょうか。元々の学校の先生が残っているのか、立ち上げにあたって少し多めに配置されているのか、その辺りを教えていただきたいです。

委員長

事務局いかがでしょうか。

事務局

教員の数は学校の学級数に応じて定められ、配置されています。また、義務教育学校につきましては、立ち上げの段階で特別なフォローが必要だと県教育委員会も認識しており、市教育委員会としても特別な加配を要望し、認められ、増員されているところです。

委員長

基本的には教員の数は法律で決められているものなのですね。それに対して、県教育委員会もプラスアルファという形で先生の数を増やしていただいているということですね。

事務局 先ほどの免許のお話に補足させていただきます。小学校と中学校の免許については、中学校の専門免許を所持していると小学校の該当教科の授業は行えるということになっております。また、働き方改革については、部活動の地域移行が国の議論で進んでいます。阿蘇米本学園だけでなく、市全体の枠組みの中で今後フォローが必要になってくるものだと考えております。また、八千代市としても教職員の働き方改革は重要な課題だと考え、今進めている状況であります。

委員長 少し協道にそれてしまい恐縮ですが、秀明大学の学校教師学部も教員を志願する人が減少し、定員 200 名を大きく割っている状況があります。コロナの影響で教員を志望する高校生が減ってしまっているようで、今回のような話を聞いて、改めて教員を志す学生に伝えていきたいと思います。八千代市でも一生懸命取り組んでいただいて、何しろ子どもの教育に関わる人材育成をしていくことも大変ですが、このように魅力的な学校ができることを広めていくことができると良いと思います。

委員 この適正配置検討委員会というのは、人数が少なくなってきた学校の統合のための検討を行う会議という理解で良いのでしょうか。

委員長 これは恐らく統合だけではなく、人数が増加している学校への対応や地区単位の学校規模が適正か検討するということだと思います。そして、今回は単純に2校を統合するのではなく、小学校3校と中学校を含めた統合というものだと思います。今後、今日の議題ではないのですが、緑が丘なども議題になってこようかとは思っています。

委員 そこにクローズアップしたいわけではなく、趣旨の確認をさせていただきました。

委員 今回の委員会開催にあたって他の委員と阿蘇米本学園を視察させていただきました。中学生が小学生のロールモデルになっていることを強く感じました。中学生の挨拶や黙動清掃の姿が素晴らしいことなど、学校生活の様々な場面での立ち振る舞いが小学生にとって手本となっていると感じました。小学校は1～6年生までしか校内にいないが、上の中学生の姿を見ることで、将来の自分、中学生になった時の自分を思い描いて、学校生活を送っているのだろうと感じました。もう一点、職員室は小学校の先生と中学校の先生が一緒になっているのを拝見した際、どの先生方も「小学校と中学校の先生方は仲が良い」ということをおっしゃっていました。実際に笑顔でお話をされている様子を見ると、教職員が前期・後期で分かれることなく、全職員が1～9年生の成長をトータルで見ながら、教育活動を行っているのだと感じました。休み時間においても、本当に自然に小学生と中学生が遊ぶ姿も見ることができました。中学生は小さい子達を思いやり、小学生は中学生に思いっきり甘える姿が見られました。統合して、義務教育学校になったことは教育効果が非常に高いのだろうということを実感してまいりました。

委員長 私も県内に3つしかない中高一貫校に2校勤務したことがありますが、教員の職員室が別なところは教員間の連携がうまく行かず、あまり良くありませんでした。一緒の職員室だと子供たちはそこへ来ます。すると中学生が来ても、高校の教員は中学生の様子を見ることが出来ます。また、一緒にいることで職員間の会話も生まれます。阿蘇米本学園は職員室がひとつということで、非常に良い環境だと感じます。

その他いかがでしょうか。

(意見・質問なし)

委員長 もう一つ協議していただきたい内容もありますので、次に進めさせていただきます。最初の説明の中で、子供たちと保護者からとった学校評価のとりまとめがあるということでしたので、このことについて事務局お願いします。また、皆様に議論していただきたいと思えます。

事務局 今年度実施いたしました阿蘇米本学園の学校評価について、報告をさせていただきます。お手元の資料を御確認下さい。こちらの資料は阿蘇米本学園ホームページ上にて公開されているものを、本日の会議にあたり、一部加工したものになります。

まず、児童生徒のアンケート結果です。アンケートは質問項目に対し、「とても思う」「思う」「あまり思わない」「思わない」の4つの選択肢で答えています。全体的に肯定的な回答が多く見られますが、画面には、「とても思う」「思う」の2つの肯定的な回答率が特に高かった3項目を示しております。お手元の資料ではピンク色となっております。続きまして、相対的に見て肯定的な回答率が低かった項目です。お手元の資料では水色となっております。

引き続き、保護者のアンケート結果です。こちらも児童生徒と同様に、肯定的な回答率が特に高かった3項目を示しております。相対的に見て肯定的な回答率が低かった項目です。お手元の資料では水色となっております。全体的に見ると約7割は肯定的な回答が見られますが、評価が高くなかった項目については、裏面に学校の分析と次年度の教育活動の方向性についてまとめてありますので、ご覧ください。事務局からは以上です。委員長お願いします。

委員長 項目もたくさんありますし、裏面のほうは文章量も多いので、少しお時間を取りますので、一通り目を通していただきまして、先ほどから御発言を頂戴しておりますが、お隣の方と内容についてお話をさせていただければと思います。学校関係の方や保護者、自治会の方等様々なお立場の方が集まってらっしゃいますので、意見交換をしていただければと思います。

(委員意見交換)

委員長 皆様、御議論ありがとうございます。近い席で出た御意見や個別に学校評価の結果について御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

委員 隣の席の先生と話をさせてもらったが、一般的にはどのくらいの評価なのかがわからないので、先生方は感覚的にわかると思うが、これを出されてもよくわからないのですが。

事務局 全校の学校評価は市教育委員会の方で、集めています。この評価を見た時に阿蘇米本学園で際立って評価が高いのは「異学年交流活動」の項目だと見ております。

委員 異学年交流は他の学校ではやっていない活動ですね。

事務局 他の小学校でも1～6年生、中学校では1～3年生での異学年交流は実施しております。

委員 異学年活動が充実しているというのは、小学生と中学生が一緒になったということの評価と見てよいのでしょうか。一般的な学校の評価はこれには当たらないということですか。

事務局 同じような項目はありますが、ここまでの肯定的な回答率の高さは見られないと思います。

委員 このアンケートは今年初めて行ったものですか。昨年も実施しているのなら統合前の4校との比較があるとより分かりやすかったのではないのでしょうか。

委員長 この点についてはいかがでしょうか。

事務局 完全に同じ項目で評価を行っていないため、難しい部分はありますが、令和3年度の統合前の小学校3校の学校評価において、子供たちの学校評価で「掃除」についての項目があります。阿蘇小学校「掃除を一生懸命しています：93%」、米本小学校「私は黙動清掃ができています：68%」、米本南小学校「掃除を一生懸命やることができた：89%」、この項目だけ見ると、特に人数が少ない学校の子供たちが、義務教育学校になり、清掃リーダーとして後期課程の生徒と一緒に清掃に取り組むことで、今回の結果が出たのではないかというように考えております。

委員 このアンケートは今後継続してこの項目で続けていくのですか。

事務局 基本的には学校が項目を作成して、経過を見ていくようになっています。

委員 学校ごとの状況に合わせて、項目を作成するのも良いが、市で決まった項目を定めて学校単位で追加とするほうがデータを分析・評価しやすいのではないのでしょうか。

委員長 アンケートの作り方について、事務局お願いします。

事務局 貴重な御意見ありがとうございます。学校評価につきましては、市教育委員会では学務課が担当しております。現状では、学校の評価は校長が、自校の実態や地域の特性を踏まえて項目を作成して、評価をしています。しかしながら、八千代市の教育ということも進めており、また各校長は各学校の教育活動においてはそのことも意識をしているところです。市教育委員会としても今いただいた意見を生かして、今後検討していきたいと考えております。

委員長 追加で教えていただきたいのですが、学校によって項目が違うというのは承知しているのですが、内容は大きく違うものなのでしょうか。または似通ったものが多くあるのでしょうか。

事務局 学校の教育の目的は基本的には変わらないものである以上、似通ったものが多くあるのが現状です。子供たちへのアンケートの中には「学校生活に満足しているか」との項目はほぼどの学校でも見られます。保護者のアンケートも同様に共通した項目が見られます。ただ学校ごとに若干言い回し等異なっているので一概に学校間で比較はできないと考えております。

委員長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員 私は以前、阿蘇中学校に6年間、昨年度まで阿蘇小学校に教頭として2年間、勤務しており、統合の準備に関わっておりました。保護者・地域の代表者や学校職員からなる設立準備委員会において、通学支援バス等通学の安全にかかわる部会に所属しておりました。これまで阿蘇小学校は通学支援バスを利用していた、その他の学校は利用していないという中

で、バスのルートや停留所等について、議論をしてきました。始まってみるまで、心配だったのですが、この項目を見させていただくと「交通ルールを守っていますか：97%」、保護者も「登下校の安全に配慮している：90%」ということで、市の方でも掛け合っていたいただいて、安全に運行できていることがわかり、嬉しく思いました。

また、「学校のきまりを守れていますか：97%」についてもかなり高いなという印象があります。統合前に4校の教職員がグループに分かれて、生活のきまりや服装について、教員同士で意見交換をするという研修もあり、そのようなことも功を奏して、事前準備がこのような形になったのではないかと思ひ、関わった者として嬉しく思います。

委員長

他に委員の方いかがでしょう。

委員

児童アンケートの中で、タブレットの使用について満足度が高い一方、保護者からのICT活用の評価が低いという結果が出ています。八千代市全体の課題ではあると思いますが、タブレットの持ち帰りをしていないので、保護者がICT教育やタブレットの使用をどのようにしているかが見えてこないのが、この結果については当然とは思ひます。ただ学校での様子を直に見るとICTを活用できていますし、お昼の校内放送なども動画で流していたりする様子が見えるのですが、その様子が保護者には伝わっていないのだと感じます。

また、保護者・地域との連携の項目について阿蘇米本学園はかなり連携されていると思ひます。動画にもあった田んぼや畑での体験学習でも地域の方が田畑を無償で貸していただいたり、そこに行くためのバスをPTAで出したり、地域柄、田んぼをやっているのが当たり前なのかもしれないが、私たちの住む大和田小学校の地区で自然体験となるとなかなか難しい部分もあるので、地域の方との連携がうまく行っており、うらやましいと感じています。

また、4校統合してPTA活動もそれぞれの学校の意見を持ち寄って、立ち上げることができていると聞いているので、連携はとれているはずなので、PRが足りないのかと思うくらいです。

委員長

ありがとうございます。今回の議題は義務教育学校の効果ということで設定しているのですが、その点についてはどうでしょうか。これまでの議論でも、清掃や異学年交流等うまくできているという意見もありました。確かに小学校でも1～6年生の異学年交流はあると思ひますが、9年生までが一緒にいる環境では、より幅広く効果的に出来ているというような意見がありました。

また、学校評価には反映されていないが、地域・保護者との連携も良くできているというご意見もあったが他はどうでしょうか。

委員

清掃については、子供たちが非常に高い評価をしていました。自校の子供たちもしっかり縦割りの清掃ができていると自負していましたが、実際に阿蘇米本学園の清掃の様子を見させてもらったのですが、想像を超えていました。前期課程の子供たちが、「自分たちもああいう姿になるんだ」という意識が1年生の時から植え付けられていて、良いロールモデルとしての上級生がしっかりその姿勢を示してお手本になっていると感じました。また、小学生が使用しない技術科の部屋を低学年も含めて縦割りで清掃していたり、一緒に掃除をしたりする姿が、良い伝統となり、次につながっていくものだと思ひています。

委員長 良いロールモデルとなっているのは、きっと上級生があるべき姿をしっかりと示すとともに、やはり休み時間などにおいて下級生に優しく接しているからこそその関係性だと思えます。そのような中学生の姿は嬉しいですね。

委員 今のお話の続きではありませんが、中学生が良いロールモデルになるというのは、「小さい子たちがいるから」というのも大きいと思います。自分たちだけでは、しっかりできないこともあるが、環境があることによって、「自分たちもお兄さん、お姉さんになれるぞ」という自己有用感もあるのだと思います。そういうところも含めて、前期児童・後期生徒ともに Win-Win の関係ができているのは、義務教育学校ならではの点だと思います。

委員 阿蘇米本学園は人数的には多くはないと思うが、今後この運用はこの規模ならではの点か、それとも今後他の地域でやろうとした場合は、人が増えてくると難しいのか、スケールアップして他でも実践していけるのか、教えていただきたい。

事務局 今後の適正配置等含めて、公共施設等個別施設計画というのがあり、それを踏まえる必要があります。教育委員会としましては、子供たちの豊かな教育環境の確保が最優先であると考えています。その上で、地域における宅地等の開発状況及び児童生徒数の動向を本委員会や通学区審議会等で御意見をいただいでいく予定となっております。

委員 素朴な疑問なのですが、蛇口のサイズやトイレのサイズなどの施設については使用学年によって利用できる大きさに差があると思うが建て替えなどは行ったのでしょうか。

事務局 元々中学校の校舎に小学生を迎えることになりましたので、義務教育学校の開校に際して、各学年の使用を想定して、蛇口の延長や黒板を上下に可動できるようにする等、統合前の令和3年度に大規模な学校施設の改修を行い、トイレ等の改修を含めて完了しております。現段階において、前期課程の児童が使用するにあたって不都合な点については、学校の方からはあがってきておらず、十分な体制で行っております。

委員 そのことについて、実際に学校に参観へ行って驚いたのが、小学生が使用しやすいように蛇口が延長されていたり、踏み台があったりと対策がしてありました。また、階段についても小学生が柵をすり抜けられないように、網が貼られていたり、板が貼られていたり危険防止の対策がとられており、細心の注意が払われているなど感じました。

委員長 ありがとうございます。その他いかがでしょうか。

委員 疑問に思ったことがありまして、児童生徒の回答において、「読書への取り組み」の項目で24%の生徒が十分に組み合わせていないというところで、前期課程の通学支援バスが遅く到着しているということについて、次年度の通学支援バスの運行時間についてという表現がありますが、今現在バスの乗車時間はどのようになっているのでしょうか。もし、現在朝7:00 となっているのであれば、それより早くということになれば、子供たちをもっと早く起こさなければならないことになると捉えています。そのあたりが気になったので教えてほしいです。

事務局 今年度のバスの乗車時間につきましては、学校到着が一番遅い便で8:00 となっております。国道16号等が事故渋滞や混雑している場合に、学校への到着が予定よりも遅れる日が数日ありました。来年度につきましては、学校とも調整をさせていただきながら、乗車時間についても検討を進めていきたいと思えます。

委員長 今 8:00 とおっしゃったのは、学校への到着が 8:00 ということでよろしいでしょうか。経路にもよるのですが、8:00 に学校へ到着するためには、何時ごろに子供たちはバスに乗車しているのでしょうか。

事務局 米本コースを例にお伝えさせていただきます。大型バスを 2 便回していますので、最初の子供たちは米本団地を 7:00 発で、学校到着が 7:22 となっています。次の便が米本団地を 7:38 発で、学校到着が 8:00 となっています。

委員長 どちらのバスに乗っても良いのですか。

事務局 基本的には学年によって乗車する便を分けています。1 便目に乗り遅れてしまった場合は、2 便目に乗ることは可能です。

委員 今 7:00 というお話があったが、例えば時間を早めると仮定して、うちの子供で考えると準備に 1 時間くらいかかっている。7:30 に学校に到着することを考えると、歩いて 5～10 分くらいなのですが、あまり早い時間になると親も早く起きる必要が出てくるし、現実的ではないのかなと思い、質問いたしました。

委員長 その辺りは、また学校とご検討いただいて。逆に保護者が仕事で早く出なければいけない家庭は、早い便に乗せたい等の希望もあると思うので、学校の方で調整をしていただいて、進めていければ良いのかと思います。御質問ありがとうございます。

委員 通学支援バスに関連して、質問です。帰りの時間も気になるところです。通学範囲が広範囲にわたるということで、仲の良い友達と家が近所ではないといったことや、アンケートの内容に通学についての項目がないので、例えば「通学が負担ではないか」との項目を入れて聞いてみてはどうでしょうか。

委員長 そうですね。今回、この会議でも通学に対しての御意見・御質問をいただいておりますので、今後学校で評価項目を作成する際に、ここでの議論を活かしていただければと思います。やはり子供たちの登下校は気になる場所ですね。安全に登下校できていることはありがたいと思います。

委員 アンケートとは少し離れてしまいますが、視察をさせていただいた際に、阿蘇米本学園の校長先生にお話をお伺いしました。一番苦労しているところは「職員間の融合」というお話でした。小学校と中学校の教員がいる中で、職員室をひとつにすることから始まり、理念を共有し、その隙間を埋めるのが校長の仕事だとおっしゃっていました。今日は子供たちの良い姿をたくさん見せていただいて、例えば 6 年生になってリーダーとしての活躍場面が減るのではないかな等の課題もあると思うが、子供たちの良い表情が見られるのは、校長先生や先生方の努力の成果でないかと思い、紹介をさせていただきます。

委員長 皆様から御意見としてはあがっていないが、今回の児童生徒のアンケート結果を見た時に、「困った時に先生たちに相談できていますか」という項目の数字が低いと感じました。統合して新しい先生方がたくさんいらっしゃるという関係もあるのかなと思うとともに、統合して先生方もお忙しいことと思いますので、子供たちと触れ合う時間がどうなのかと少し心配したところです。この学校評価の内容については、すでに議論されているとは思いますが、再度見て、是非活用をして欲しいと思います。

委員 先ほどの映像の中で入学式の様子はあったが、義務教育学校では 6 年生の修了時には、

小学校の卒業証書はもらえないということでしょうか。

事務局

6年生につきましては、中学校は私学へ進学するお子様もいますので、卒業証書ではなく前期課程修了ということで、修了証書が授与されます。日程につきましては市内小学校と同じ日に、同じような式典の形式で実施予定です。

委員長

本日は、委員の皆様から多くの御意見・御質問をいただき、ありがとうございました。良い集まりになったと思います。熱心に御議論いただきましたこと、感謝いたします。今回御意見いただいた内容については、「義務教育学校の効果」という形で事務局の方でまとめていただきたいと思います。また、まとめていただいた内容は、委員の皆様へ送付させていただき、内容について御意見ありましたら、お寄せいただければと思います。事務局から、連絡等がありますでしょうか。

事務局

八千代市通学区域審議会を担当する宮崎です。学校の適正配置と通学区域は密接に関係していることから、今年度ここまで計3回行われた八千代市通学区域審議会の報告を簡単にさせていただきます。

皆様もすでにご存じだとは思いますが、西八千代地区では児童数の増加への対策として、みどりが丘小学校の分離新設校が設置される運びとなっております。今年度、八千代市通学区域審議会では、みどりが丘小学校の分離新設校設置に伴う通学区域の変更について、教育長からの諮問を受け審議を行って参りました。3回の審議会を経て、3月中に答申が提出される予定です。

児童生徒がより充実した学校生活を送ることができるようになるためには、学校の通学区域の変更を検討し、適正規模の範囲に収めていく必要があります。今後も八千代市通学区域審議会では、市内小中義務教育学校の児童生徒数の動向を把握しながら、通学区域に係る検討を進めてまいります。本日は大変ありがとうございました。以上です。

委員長

以上で第1回八千代市学校適正配置検討委員会を終了いたします。